日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（令和元年度）

機関番号	３２６０４

所属研究機関名称		大妻女子大学
研究代表者	部局	家政学部
	職	教授
	氏名	小林　実夏

１．研究種目名　基盤研究(C)(一般)　　２．課題番号　17K00935

３．研究課題名　育児期の女性の精神的社会的要因や地域・家族の支援と子どもの食環境や発達との関連

４．補助事業期間　平成２９年度～令和３年度

５．研究実績の概要

本年度も引き続き、国立成育医療センターで実施されている「成育母子コホート研究」の生後6年後の調査を子の父親・母親を対象に質問紙法により実施した。調査の内容は、子の食習慣、しつけ、世話について、父親・母親それぞれの食習慣についてである。これらの調査とあわせて簡易型自記式食事歴法質問票（BDHQ）を用いた食事調査の実施を行った。来年度も引き続き調査対象者の数を増やしデータ構築をすることによって、出産後うつ、不安障害、健康度等の子どもの栄養や発達、あるいは母親、父親の食事への影響について明らかにする予定である。特に、妊娠中および出産後の母親の栄養摂取状況を、エネルギー栄養素摂取量を算出して摂取量の過不足について評価することのみならず、食事バランスガイド、食事の多様性、食事パターンを用いた新しい評価方法によって把握するための検討を行い、出産後うつ、不安障害、健康度等の子どもの栄養や発達、あるいは母親、父親の食事への影響について関連を明らかにする。

また、これらの関連に出産・育児に関するソーシャルサポート、家族のサポート、友人のサポートが与える影響について明らかにする予定である。

６．キーワード

母子コホート　発達　食習慣　食事評価　栄養摂取状況　サポート　育児

７．現在までの進捗状況

区分　(1) 当初の計画以上に進展している。

理由

2017年度は、6歳児から236件、母親から223件、父親から202件、合計661件のデータを収集した。2018年度は、6歳児から300件、母親から292件、父親から255件、合計847件のデータを収集した。2019年度は、6歳児から225件、母親から217件、父親から183件、合計625件のデータを収集した。3年間で総合計2133件のデータ収集が完了した。

産後うつ（EPDS）、精神的健康尺度（Kessler-6）、健康関連QOL （SF-8）、母親から乳児へのボンディングスケール（MIBS-J ）等の指標と子どもの発育状況、食習慣との関連を検討するため、各データの整理が完了した。

妊娠初期、中期の女性の栄養摂取状況について、食物摂取頻度調査（FFQ）の結果から、食事パターンの抽出および栄養素・食品の摂取量を算出した。抽出された食事パターンと各ビタミン・ミネラル摂取量との関連を検討し、妊婦の食事パターンによるビタミン・ミネラル摂取評価をおこなった。その妥当性について検討を行っているところである。また、食事の多様性、食事バランスガイドを用いた評価方法についても検討しているところである。

８．今後の研究の推進方策

今年度で生後6年後の調査は配布・回収が終了したので、解析用のデータベースを構築する予定である。また、データの整理ができた調査項目について解析を行い、母親の就業状況、家族環境、産後うつや不安障害の発症等が子どもの食環境、栄養摂取、発育や家族の食習慣に与える要因に関して明らかにする。特に、現在行っている各種の食事評価法の開発およびその妥当性を検証し、母親の栄養摂取状況と産後うつや不安障害、また子の栄養摂取、発育との関連について検討する予定である。

９．次年度使用が生じた理由と使用計画

年度末に申請した伝票が年度末決算に間に合わなかったため。

１０．研究発表（令和元年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Kobayashi M, Sasazuki S, Shimazu T, Sawada N, Yamaji T, Iwasaki M, Mizoue T, Tsugane S.	４．巻 74
２．論文標題 Association of dietary diversity with total mortality and major causes of mortality in the Japanese population: JPHC study.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Eur J Clin Nutr.	６．最初と最後の頁 54-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41430-019-0416-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kobayashi M, Hirata M, Abe E, Horiguchi M.	４．巻 3
２．論文標題 Differences in Dietary Intake of Women with Standard Weight but Varying Body Fat Percentages in Japan.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Food Science and Nutrition Studies	６．最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.22158/fsns.v3n3p84	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

1．著者名 Kobayashi M, Hoshi N, Horiguchi M.	4．巻 29
2．論文標題 Validity of self-diagnosis fatigue checklist for young women.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Int J Hum Cult Stud.	6．最初と最後の頁 526-536
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hoshi N, Kobayashi M, Horiguchi M.	4．巻 55
2．論文標題 Evaluation of the subjective fatigue degree and period and relation with lifestyle / dietary habits.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Bulletin of Otsuma Univ.	6．最初と最後の頁 99-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 彦坂令子，上杉宰世，　小林実夏
2．発表標題 女子大生の食事摂取状況と生活習慣－50年間の推移－
3．学会等名 日本栄養・食糧学会大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 毛利英美子,小林実夏
2．発表標題 特定保健指導における分野別習得度について-保健師と管理栄養士の比較-
3．学会等名 日本栄養・食糧学会大会
4．発表年 2019年

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

1．発表者名 M Kobayashi and E Abe
2．発表標題 Differences in Dietary Intake of Women with Standard Weight But Varying Body Fat Percentages, in Japan
3．学会等名 Asian Congress of Nutrition（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 E Mori and M Kobayashi
2．発表標題 On the Mastery Degree of Specialist Personnel in Specific Health Guidance of Each Field in Japan.
3．学会等名 Asian Congress of Nutrition（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 土井玲奈，小林実夏
2．発表標題 妊娠中期女性の栄養素の摂取状況について
3．学会等名 日本食生活学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 小林実夏，土井玲奈，小川浩平， 森崎菜穂， 藤原武男
2．発表標題 食物摂取頻度調査票から抽出した食事パターンによる妊娠初期のビタミン・ミネラル摂取評価
3．学会等名 日本栄養改善学会
4．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

１１．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

１２．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

１３．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

－

１４．備考

－